

# ワークショップ 日蘭関係史料を読み解く



**日時** 2018年9月18日—20日 10時～17時（20日は16時ごろ解散）

**場所** 東京大学史料編纂所（東京大学本郷キャンパス）

**対象** オランダ語文法を学んだ経験のある学生・若手研究者

（ワークショップの参加費無料。但し交通費・宿泊費等は各自負担。部分参加可能。）

## 【開催趣旨】

日本史研究において、従来日蘭関係史の研究は、大きな意義を有してきました。しかし、近年、日本語とオランダ語の史料を用いて研究を行う若手の研究者は、減りつつあり、今後の研究には危機が迫っています。戦後一貫して日蘭関係史の研究・史料収集の拠点であった東京大学史料編纂所と、現在国内において唯一のオランダに特化した教育コースを有する長崎大学多文化社会学部の協力によって、日蘭関係を本格的に研究する若手の一助になればと考えています。本ワークショップでは、オランダ語の古文書読解の講習を主目的とし、古文書読解に必要な講義を実施します。

## 【カリキュラム】

- 18日 午前 講義 19世紀幕末対日関係文書について（担当 東京大学教授 横山伊徳）  
午後 「東大シーボルト文書」の読解
- 19日 午前 日本商館文書について（担当 東京大学教授 松井洋子）  
午後 17世紀日本商館文書などの読解
- 20日 午前 講義 1 情報論からみる日蘭関係史料（担当 長崎大学教授 木村直樹）  
講義 2 蘭学史料（担当 ライデン大学名誉教授 ボイケルス）  
午後 巡検 日本橋長崎屋跡・江戸城本丸跡などを予定

## 【参加申し込み・お問い合わせ先】

長崎大学多文化社会学部 木村直樹 n-kimura※nagasaki-u.ac.jp （※は@に変換してください）

**主催**：長崎大学多文化社会学部

**共催**：東京大学史料編纂所 **協力**：ライデン大学東京事務所